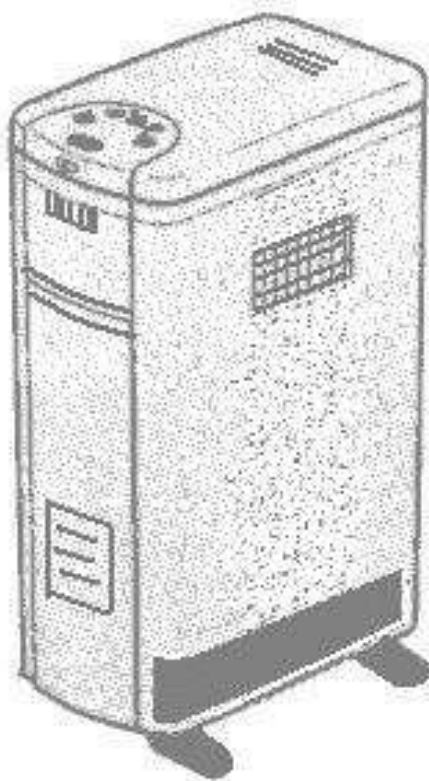


電動生ごみ処理機でつくる

生ごみ堆肥

実践編



# 生ごみを出さないための工夫

## <ポイント>

- 食べきれぬ分だけ買う。
- 料理の作り過ぎはしない。
- 食材は残さず使おう！



## 無駄のない献立の作成

### ◎エコクッキング（捨てていた部分の利用）

#### 【野菜】

○ブロッコリーの芯 → 細かく刻んでシチューや炒め物、味噌汁の具に。



○大根 → 葉は漬物や味噌汁の具。皮は厚めにむいて一夜漬けやキンピラに。

○その他の野菜くず → スープやかき揚げ、お好み焼きなどの具。

#### 【魚の骨せんべい】

○材 料 → 魚の骨（アジ、サンマ、イワシなど）一般に柔らかい骨ひれ、尾などすべて食べれます。



○作り方 → 魚の骨の水気を切り、低温の油でカリカリになるまでじっくり揚げ、軽く塩・コショウを振る。（油は何度か使用したもので充分です）

#### 【昆布の佃煮】

○材 料 → だしをとった後の昆布。



○作り方 → 昆布を1.5cm角位に切り、酢を少々入れたお湯で柔らかくなるまでゆでる。みりん、醤油、砂糖を加えて水気がなくなるまで煮て、お好みで一味唐辛子、ゴマなどを振る。

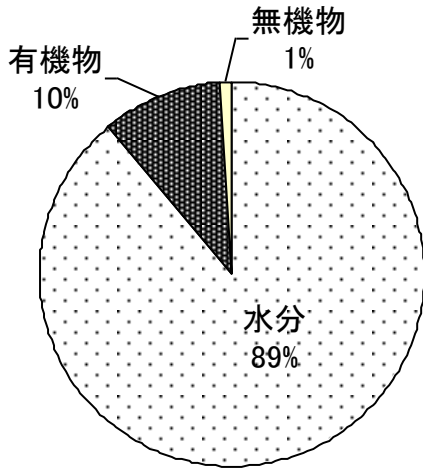
#### 【かつお節のふりかけ】

○材 料 → だしをとった後のかつお節。

○作り方 → かつお節は、細かくきざみ、みりん、醤油、砂糖を加えて弱火で煮る。水気がなくなったら、お好みでゴマ、粉山椒などを加えて強火でさっと炒り煮をする。

# 生ごみが堆肥になるまで

## 生ごみの成分



有機物 ⇒ 炭素(C)を主成分に、酸素(O)、水素(H)などからできた化合物をいいます。

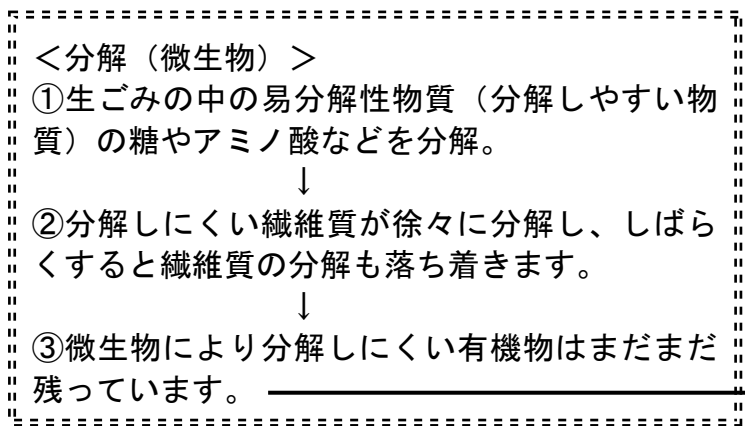
そのため、いろいろな微生物の働きをかりて、ゆっくりと分解させると、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)や水(H<sub>2</sub>O)などに変化して空気中に飛散してしまいます。

無機物 ⇒ 水分の蒸発や有機物の分解が行われたあと最後に残る窒素、リン酸、カリをいいます。

理論上は100分の1位になります。ここまで分解すると、化学肥料と同じで、畑に入れても微生物の活性をたかめることはできません。

## 生ごみ堆肥化のしくみ

●生ごみは、ゆっくりと分解すると無機物だけが残りますが、分解しやすい物質を出来るだけ早く分解して、分解しにくいものは残したまま利用するのが堆肥です。

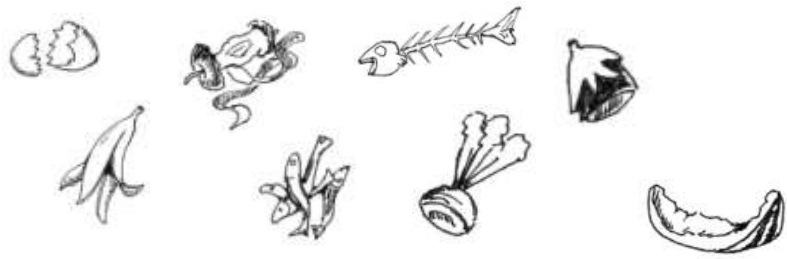


この時できるものが生ごみ堆肥です。  
元の生ごみの量の20分の1以下になります。



生ごみ堆肥には、難分解性の有機物が含まれているので、畑に入れると微生物が時間をかけて、さらに分解し、肥料成分を作物に供給します。

また、土壌中の微生物を活性化します。



# 電動生ごみ処理機（バイオ式）の使い方

☆用意するもの



電動生ごみ処理機



バイオ基材



バケツ

☆設置方法と使い方は、機種によって異なりますので、説明書をよく読んでご使用ください。

## <アドバイス>

1. 投入する際、堆肥にできるものと、堆肥にできないものとあります。
  - ・次ページに「堆肥にできるもの、できないもの」を記載してありますので、参考にしてください。
2. 生ごみを投入する前に、必ず水切りをしてください。
  - ・処理機の槽内の水分が多くなると、処理し切れずにべとついたり、臭いが強くなる恐れがあります。
  - ・スイカやメロンなどの水分の多い生ごみを一度に大量に投入すると、処理物がべたつき、処理が遅くなったり、処理機に負担がかかる恐れがあります。
3. 硬くて大きいものや長いものは小さくしてください。
  - ・ゴボウ、トウモロコシの芯など硬くて大きいものやトウモロコシの皮、長ネギの白根など丈夫な繊維質の長いものは、5 cm以下に小さくしてください。大きいままでは、攪拌棒の回転を妨げて攪拌の異常の原因になる恐れがあります。
  - ・ごはん類、麺類などでんぷん質のものは、団子状に固まる原因になるので、よくほぐして入れてください。
4. 入れ過ぎに注意してください。
  - ・一日に入れる量は、機種にもよりますが、多くても1.2 kgとし、2～3回に分けて投入しましょう。毎日連続して多く入れ過ぎると処理し切れず、水分が多くなりべとついたり、臭いが強くなる恐れがあります。
5. 処理物は、こまめに早めに取り出してください。
  - ・処理機の槽内に処理物を溜まったままにしていると、土状になり、微生物が住みにくくなってべとついたり、処理機の中が汚れて固まりがへばりついてしまいます。また、攪拌の異常の原因になる恐れもあります。

# ポイント①

## 堆肥を作るための注意

★生ごみの水分過剰に気をつけましょう。

★生ごみの水分は90%、堆肥化（微生物が働きやすい）に向く水分は60%です。50%以下では、乾燥により微生物の動きが低下し、70%以上では、酸素不足になります。（分解には酸素が必要です）

×90%



○60%

○ 60%の水分は、材料を強く握りしめたとき、手に水気を感じる程度です。

### ※堆肥にできるもの、できないもの

☆堆肥にできる生ごみ



土の中で分解されるもの・・・調理くず食べ残し



☆堆肥にできないごみ



土の中で分解されないもの、腐敗した生ごみ

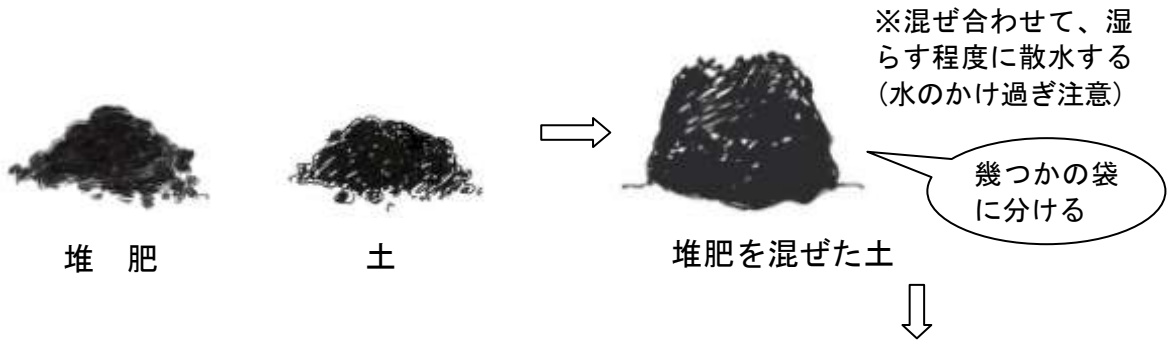


# ポイント②

## 完成した生ごみ堆肥の使い方

### 1. 土と混ぜて利用する場合

(1) 取り出した堆肥と土をおおよそ1 : 1の割合で混ぜ合わせます。



(2) (1) をビニール袋に入れ、袋に幾つか穴をあけて、雨ざらしにならない日陰で風通しのよい場所に、約1~2ヶ月保管します。



※注意 堆肥物に水をかけ過ぎると汚泥状態になり、腐敗し、虫が湧いたり臭いがしたりします。このような不快な状態になった場合は、土と混ぜて水分を調整して利用してください。

(3) 利用する時は、必要な量を取り出して土に混ぜて約2倍に薄めて利用します。



### 2. 直接庭などに埋める場合

(1) 植物の根付近を避けて埋めてください。根ぐされなどで植物が枯れる恐れがあります。

